

## 高津区おはなしアーカイブ

- 池田 清夫 (いけだ すがお)さん  
昭和14年生まれ 79歳  
川崎市高津区下野毛在住



### ◆ご家族のこと

私は生まれも育ちも下野毛。ずっとここで暮らしてきました。

兄妹は女5人男5人で10人、私は一番下の末っ子です。一番上の姉は明治43年生まれの養女で、私と29歳も違うんですよ。

父、母、祖母、それから叔父さんも一緒に暮らしていました。

父は農業の傍ら町会長、民生委員等をしていました。土地柄田んぼはなくて畑です。麦、野菜、芋、トウモロコシ、桃、柿などを作っていました。特に柿が多かったですね。禅師丸柿を戦後もしばらくの間市場に出していました。

あのころの親は皆厳しかったし強かったし怖かったですよ(笑)。私の母も厳しい人でね、よその家の桃をもしゃった時には木に縛られた、あれは忘れられないです。物置き倉にいれられたこともあったし。でも後は優しくかったですよ(笑)。

台所にはカマドが2つあって、3升炊きの大きな釜2つでご飯を炊いていました。食事はみな一緒に食べて、今のようにテーブルではなく、1人ずつのお膳でした。板の間に正座して、食事中は喋ると祖母に叱られました。明治生まれの厳格な気質ですね。

私が26歳の時に父が、27歳の時に母が、病で亡くなりました。母75歳、父77歳でした。

私自身は見合いをして28歳で結婚しました。娘が2人おります。

### ◆小学校入学前のころ

兄たちは戦地、会社勤め、学業をしていましたが、私はずっと遊び専門で、たまに手が足りないとき、麦刈り、草刈りなどは一生懸命しましたね。

畑があったのは現在の県営住宅、柿山があったのが現在の老人いこいの家のあたりですね。

そのうち兄たちが兵役にでたり、姉が結婚したりで、手が足りなくなって、戦後しばらくして畑の土地は県に譲りました。農業は縮小し食料品店を始めました。

小学校入学は20年4月でしたが戦火のため入学式はなくて、坂戸の安養院というお寺に行っていました。寺子屋ですね。

でも戦争が激しくなっていましたから、読み書きはしないで、もっぱらドングリ拾いをしていました。食料になるんです。香ばしいけれど味のないクッキーみたいな感じになるんですかね。

我が家は農家だったから何かしら食べるものはありましたが、とにかく食糧難の時代でしたからね。

#### ◆戦争の記憶

そのころ戦争はもう大変になっていましたが、でも疎開はしなくて済んだんです。

戦争終盤の昭和19年か20年ごろ、戦争が激しくなってきた、東京・横浜の親戚が被災し、少しの家財を乗せ逃げてきました。下野毛でも機銃掃射を何度も受けたし、爆弾を落とされたこともありました。

B29に向かって、日本の小さな戦闘機が空中戦をしているのを見上げていた記憶があります。

焼夷弾も随分落とされて、家の前の防空壕に逃げこんでいました。焼夷弾が麦わら屋根に落ち刺さると父たちが払いのけたり消し止めたり、そういう作業をしていました。

近くの府中街道沿いの畑には爆弾が落ちて、その跡は池みたいに大きな穴ができていました。

一番上の兄は戦争でフィリピンのマニラ

で激戦にあたり、船を撃沈されたりした経験もあるんです。怖い経験をいっぱいしています。次兄は国内での通信隊で復員、三兄は二子玉川のラッカサン塔で訓練特攻隊に志願寸前で終戦、四兄は家事をよく手伝い、またガキ大将であった弟の私をよく面倒見てくれました。長女は満州から帰国し、気丈な姉で姉弟達を助け心の優しい気品のある人でした。

8月15日には皆が寄せ場（寄り集まる場所）に集まって終戦のことを聞きました。言葉の意味はわからなかったけれど、大人の人の様子を見て、大変なことが起こったのだと思いました。

#### ◆野毛の渡し

よく東京の人が下野毛の渡し船で多摩川を渡って、食料を求めにきていました。

下野毛には30軒ほどが暮らしていて、農家が交代で船頭になっていました。菩提寺のお参りや日頃の交通の手段としても使われていましたよ。また、船は結構手伝いましたね。冬は寒くて大変だったけど、夏は楽しかったです。

野毛の地域は、昔は土地がつながっていたけれど、洪水のせいで川に隔てられて分かれちゃったんですよね。だから向こうに住んでいても畑がこっちにある人とか、その逆のケースとかあったんです。それで畑仕事をするために川を渡らなくちゃならないわけです。

下野毛の渡しは江戸初期から昭和30年ごろまであったんです。昔は船が2艘あったそうです。1艘の船には畑仕事に使う牛や馬を乗せて、もう1艘には人間が乗っていたそうです。渡船賃は2円～3円くらいだったと思います。

当時からずっと現在まで30軒ほどが川の向こうの善養寺の代々の檀家で、我が家の菩提寺でもあります。

#### ◆小学校のころ

昭和20年から高津小学校に通っていました。そのころは国民学校と言っていました。学校まで2キロほどあって、歩いて1時間半ぐらいかかっていた。

終戦直前の大変な時期でしたから入学式はなかったです。クラスは5～6クラスほどありました。

終戦後に授業が始まって先輩の教科書を貰って使っていましたが、あちこち黒く塗りつぶしてありましたね。

校庭に奉安殿、二宮金次郎の像があり、直立不動でお辞儀の礼をして教室に入りました。なにしろ運動場のど真ん中であつたので、印象が強いです。

小学校2年生の頃だと思いますが、憲法記念日に羊羹が全員に配られました。大きな羊羹だったなあ。もったいなくてなかなか食べられなかったですよ(笑)。

それから白衣を着た人が学校に来てD・Tを背中と頭に振り撒かれたり、天然

痘の予防接種を受けたりしました。

給食に牛乳を配られたけど、私は飲めないんで、こっそり兄に飲んでもらっていました(笑)。そのころは白米はなくて、麦ごはんは大根を混ぜて量を増やしていましたね。

2年生ごろまではお祭りの時、授業を早く終わらせてくれたんです。嬉しかったですね。

3年生ごろからはずいぶん厳しい先生が増えて、廊下に立たされたり、キセルで叩かれたりしてね、おっかない先生だった。でも家庭訪問のときは褒めてくれるんですよ(笑)。

小学校5年生の時東高津小学校ができて、6年生からそちらに通いました。2クラスでした。そして第一期生の卒業生になりました。

中学、高校は受験して攻玉社に入学しました。とても厳しい学校でしたが、楽しい思い出も沢山あります。

#### ◆多摩川

小学校時代は、学校から帰ったらすぐに多摩川に行って遊んでいました。今のせせらぎ広場の先あたりに「赤岩」って呼んでいた、赤土の具合のいい遊び場があつてね。

水が綺麗だったなあ。それが70年前に小河内ダムができてから変わってきたんですよ。泳げたのは中学時代まででしたね。今は下水が整備されて、まただんだんきれ

いになり始めていますね。

明治の時代に川が氾濫したことがあったそうだけど、父が青年のころに、近隣の住民が皆でモッコを担いで堤防を作ったんだそうです。おかげで昭和になってからは洪水はないです。

ただね、最近区役所から配られたハザードマップだと、この辺は海拔が低いので大きな災害に見舞われたら、危険だと示されています。



ハザードマップで防災情報を確認しよう！

#### ◆遊び

小学校のころはいっぱい遊びました。木登り、水雷母艦（二手の陣地に分かれて戦うゲーム）これは面白かった！忘れられないな。それから、押しくらまんじゅう、ムカデ飛び（6～7人ぐらいつ繋がって馬跳びのように飛び越していく）、冬は雪が降ると雪合戦やスキー。スキーは竹を切ってきて自分たちで作ったし、それに箱を乗せてソリにもしました。

あと、網を仕掛けてヒバリとか鷺とか野鳥を捕まえて遊んだな。

それから5年生ごろまで鳩を飼っていました。鳩小屋作って20羽ほどいたかな。なついて肩にとまったりして可愛いんです。

中学・高校では山岳部に入って、丹沢、北アルプス後立山連邦縦走しましたね。剣岳はスリル満点でしたよ。登山は社会人になってからも続けていました。女房と一緒に登ったこともありましたしね。

#### ◆寄せ場

寄せ場というのは屋根と四本柱でできていて、相撲の土俵場のような形をしたものです。

子どもの遊び場でもあって、初午には、周りにムシロを壁のように下げて、中央に火を焚いて、泊まりで夜通しお菓子を食べました。

お菓子を買うお金は、子どもたちが太鼓をたたきながら歌って家々をまわり、お金を貰うんです。

初午の時に食べる一番豪華なお菓子は栗饅頭でしたね。

寄せ場には自転車に乗って、紙芝居もきました。拍子木たたいてね。水あめを買って、クチュクチュとこねてから舐めるの。お煎餅も持ってきていたね。

一番人気があったのは「黄金バット」だった。そのころの子どもたちのヒーローだね。

## ◆ラジオと映画

そのころの家族の娯楽っていうとラジオでした。

ラジオ番組で「鐘の鳴る丘」っていうラジオドラマの番組があってね、戦争孤児が丘の上の家に集まって一生懸命生きていく悲喜こもごもの話だったけど、何年間続いたか…ずいぶん長い間やっていましたよ。

それから、戦後間もなくのころ、多摩川を渡って渋谷の道玄坂まで行って、兄貴と映画を見たことがありましたよ。チャップリンの映画だったなあ。

歯車だのペンチだのがいっぱいあって、チャップリンがその中を走り回っていたわけ。「モダンタイムス」っていう題名だったかなあ…。

私はいつもはゲタをはいていたんだけど、その時は草履を履いていったんだ。兄貴は革靴を履いてったな。多分、払い下げで貰ったんじゃないかな。普段からズック靴を履くようになったのは小学校3、4年生のころからだね。



楽しい遊びがいっぱいあったよ

## ◆おやつ・お正月の料理

子どものころのおやつでよく覚えているのは梅干しだな。竹の皮を円錐形に巻いたものに梅干を入れてチュウチュウ吸っていました。

それからサツマイモ、トウナス（カボチャのこと）、スイカですね。

お正月の料理はお重に詰めて、お屠蘇で祝っていました。今も同じです。雑煮は醤油味のあっさりした味付けで、コマツナ、大根、サトイモ、ナルト、ゆずを入れます。お餅はやわらかく茹でたものでした。人数が多かったから焼いてられなかったからね（笑）。家で餅つきして、のし餅にして、四角く切ったものです。

## ◆家業・就職・独立

高等学校卒業後は18年間サラリーマンでした。就職して3年後から明治学院大学で商学の勉強をしました。仕事との両立は厳しく苦労したけど、なんとか5年半かけて卒業しましたね。

サラリーマンのときは造船会社の経理と営業をしていたんですが、不動産の査定などに係わることもあり、不動産業の仕事に興味を持った次第ですね。

この仕事を始めて30年になります。

## ◆大好きなふるさと高津

高津は私の大好きな街、自慢できる街だと誇りを持っています。ますます住みやすい街に、安心して暮らせる街になってほしいし、していかなきゃいけないですね。

高齢者も、障害者の方も、住んでいるみんなに愛してもらえる街になってほしいです。

保護司、人権擁護委員を長く勤めさせていただきました。また、地域の社会福祉協議会の役目をいろいろ長くやらせてもらっていますが、「高津に住んで良かった」という言葉をたくさん聞かせてもらえるように努力したいです。残りの人生を創造力、理想を胸中にしめ、楽しい生活が続くようお願い祈って参る所存です。

(平成30年9月7日取材)